



2019年度 新潟市の取り組み

～政令指定都市の第2ステージ
拠点都市・新潟を目指して～

新潟市長 中原 八一

- 1 -

2019年度の新潟市政



■ 2019年度の新潟市は

未来に向かって

「全国とつながる」、「世界とつながる」拠点都市・新潟
を目指して

活力ある新潟市に向けた取組みを加速

本市の有する駅・空港・港の活性化に向け、国・県との連携を強化

拠点性の向上

- 2 -

予算編成の基本的考え方



- 基金を積増ししつつ、真に必要な事業について強化・継続できるよう、更なる選択と集中を図る

対前年度比 +120億円(+3.2%)

2019年度当初予算

総額 3,922億円

- ◆ 基金積立額 5億円 (対前年度比 +3億円)
- ◆ 民生費・衛生費 1,455億円 (対前年度比 +41億円 +2.9%)
- ◆ 教育費 616億円 (対前年度比 +15億円 +2.4%)
- ◆ 農水費・商工費 233億円 (対前年度比 +5億円 +2.2%)
- ◆ 普通建設事業費 453億円 (対前年度比 +98億円 +27.4%)
- ◆ プライマリーバランス +17億円

基金残高は約40億円に

持続可能な行財政運営に向けた改革

行財政の集中改革推進



- ▶ 2019年度からの3年間で「集中改革期間」と位置づけ、組織・人事や事務事業の選択と集中を徹底的に実施
- ▶ 行財政改革とともに、サービス改善と政策の質の向上を市民目線で実施

集中改革の基本的な考え方

役割・効果が低下している事業・施設等の洗い出し、改善手法の見直し・実行により、ニーズの高い事業に投資できる財政基盤を確立



- ▶ 「新潟市行政改革プラン2018」から、財政基盤強化につながる項目を抽出し、「(仮称)集中改革プラン」としてスピードアップ、具体化・強化
- ▶ 総務部に集中改革推進課を新設し、組織横断的な視点から改革を推進

2019年度の新潟市の取り組み

都市像 I

「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」



ずっと安心して暮らせるまち

■ 「地域包括ケアシステム」の発展に向けて 

◆ 訪問型生活支援モデル事業

- ▶ 「助け合いの学校」により、生活支援の担い手を育成するとともに有償の助け合い活動など、地域における支え合いを推進

◆ 介護人材の確保

- ▶ 地域包括支援センターの処遇改善
- ▶ 資格取得や研修受講への支援のほか、事業者等が人材確保策を検討する協議の場を設置



「地域力・市民力」
を活かした
支え合いの
仕組みづくり



ずっと安心して暮らせるまち

■ お年寄りが元気なまちに向けた取組み 

◆ フレイル予防の推進

- ▶ フレイル(虚弱)を予防し、健康寿命を延伸するため、フレイルチェックを活用した取組みを推進

◆ オーラルフレイル予防の推進

- ▶ 口腔機能の維持・向上を図るための健診を実施

◆ 認知症対策の推進

- ▶ 認知症の人を早期に適切な支援につなぐ「認知症初期集中支援チーム」の全市展開
- ▶ 知識や関わり方についての理解を深める講座の開催などにより、認知症サポーターを養成





男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまち

■ 妊娠・出産・子育ての一貫した支援

◆ こども医療費制度の対象拡大

- ▷ 通院助成の対象年齢を小学6年生から
中学3年生まで引き上げ



◆ 通年の待機児童ゼロに向けた取り組み

- ▷ 私立保育園等の建設を促進

◆ 安心して子どもを預けられる環境づくり

- ▷ 未設置区において、**病児・病後児保育**の実施
→ 病児保育: 南区, 病後児保育: 北・西蒲区 (2020年度開始予定)
- ▷ **放課後児童クラブ**の受け入れ環境の充実



学・社・民の融合による教育を推進するまち

■ 「新潟らしい教育」を充実

◆ 学力向上に向けた取り組み

- ▷ 各学校における学力向上プログラムに基づく取り組みの推進

◆ 子どもたちの地域への愛着と誇りを育む教育

- ▷ 地域と学校パートナーシップ
- ▷ 新潟発わくわく教育ファーム



■ より質の高い教育に向けた環境整備

◆ 教育ネットワークの構築

- ▷ 学校間の情報共有, 校務の効率化を推進

◆ 教員の多忙化解消や働き方改革

- ▷ 学校事務支援員, 部活動指導員の配置強化

◆ 全普通教室へのエアコン設置



都市像II 「田園と都市が織りなす、環境健康都市」

II 田園と都市が織りなす、環境健康都市

県市連携し、都心の都市デザインを実現



大和跡地再開発

民間開発へ支援

万代島にぎわい空間創造

将来ビジョンを推進 賑わい創出

万代5丁目再開発

民間開発へ支援

都心軸（駅～古町）

新潟駅周辺整備

ミズベリング信濃川

2006～2023年度予定
2019.5 新潟鳥屋野線 一部供用開始

人と環境にやさしい にぎわうまち

■ まちなか活性化

◆ 大和跡地再開発

➢ 市役所本庁機能の一部移転

**(仮称)市役所ふるまち庁舎
を整備**



新庁舎オープン
2020年5~6月頃を予定

◆ 次世代につながる**魅力ある店舗づくりを支援**

◆ 古町地区の**空き店舗活用支援**

民間活力を引き出しながら、**まちなか再生**

人と環境にやさしい にぎわうまち

■ **BRT・新バスシステム** 
乗り換え環境を改善

・**交通結節点の環境改善**



青山交通結節点

・**情報案内板整備** など



情報案内板

使いやすく、喜ばれるバス交通へ



人と環境にやさしい にぎわうまち

健康寿命の延伸に向けて

【健康経営】とは
従業員等の健康管理を経営的な視点で
考え、戦略的に実践すること

◆ 企業・団体と連携し、『健康経営』を推進

- ・新潟市健康経営認定制度（H30実績：138事業所）
健康経営に取り組む事業所を認定
- ・ウォーキングチャレンジの実施



新潟県立大学の学生との
コラボによる「ちよいしおメニュー」

◆ にいがたちよいしおプロジェクトの推進

◆ 健診受診率向上のため、 タイプ別の健診受診勧奨を実施

◆ 地域版にいがた未来ポイント

企業や地域との連携により、**健康寿命を延伸**



誰もがいきいきと働ける環境づくり

女性や若者などが働きやすい環境づくり

◆ 働き方改革、ワークライフバランス の推進

- ▷ 働きやすい職場づくり推進企業を表彰

◆ 人材の獲得・定着率向上を推進

- ▷ 企業が共同で行う採用から定着までの
一貫した取組みを支援

◆ 産業界と連携した市内就労の促進

- ▷ 学生・若者への市内企業の魅力発信

◆ 障がい者就業支援センター（こあさぼーと） の企業訪問への体制強化

2018年度
働きやすい職場づくり表彰事業所

- (株) シアンス
- 新潟信用金庫
- (株) パウハウス
- 藤田金属 (株)
- (株) 千代田設備



市長賞 (株) シアンス

都市像Ⅲ

「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、
創造交流都市」

- 17 -

Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

新潟にふさわしい役割を果たし成長する拠点

■ 農業・農村を元気に～『儲かる農業』を実現

◆ 元気な農業応援事業

- ▷ 米と園芸の複合営農を推進
- ▷ 輸出用米の生産拡大に支援
- ▷ 農業の競争力強化を推進

⇒ ドローンなど、ICTを活用したスマート農業を推進



■ 農林水産物の販路拡大

◆ 多様な販路の確保

海外向け米と酒を中心とした
プロモーションを強化



- 18 -



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 経済活力と雇用を創出 

◆ 生産性向上による競争力強化と人手不足への対応

- ▷ 生産性向上を図るための設備投資、
新事業展開へ支援



◆ 創業、事業承継の円滑化支援

- ▷ 創業希望者同士のネットワーク形成支援、創業機運醸成
- ▷ 中小企業の事業承継を支援



◆ 企業誘致の強化

- ▷ 新たな工業用地の確保に向け協議
- ▷ ICT企業向けオフィスビルのリノベーションへの支援
- ▷ 企業誘致に向けた市の組織体制を強化



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 航空機、ICTをはじめとした成長産業の育成 

◆ 航空機産業クラスターの推進

- ▷ 技術力のある企業をとりまとめ、一貫受注生産体制を構築する事業者を支援
- ▷ 生産管理・品質保証の高度化を支援



NSCA戦略的共同工場(南区)



JASPA共同工場(西蒲区)

◆ ICTの活用促進に向けた実証事業等の支援

- ▷ 先端技術による新しいビジネスの創出を促進、
ICT人材の育成

成長産業の育成・中小企業の高度化を通して
経済活力と魅力的な雇用の場を創出



環日本海ゲートウェイ機能の強化

■ 県都新潟の玄関口としての顔づくり



◆ 新潟駅、駅周辺地域の整備を推進

新潟駅周辺整備事業(2006～2023年度予定)

- ▷ 在来線の高架化、幹線・生活道路の整備等
2019年5月 新潟鳥屋野線 一部供用開始!



◆ 新潟空港の活性化

- ▷ 新規路線の誘致、既存路線の利用者拡大を推進



◆ 新潟港の強化

- ▷ クルーズ船誘致セールスの展開、受入態勢の充実



県との連携をさらに強化し、拠点性の向上
に向けた取組みを推進



魅力を活かした交流拠点

■ 独自の魅力を活かした交流促進



DCや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、
観光客が快適に滞在・移動できる受入環境を整備



◆ 観光客のおもてなし態勢を強化

- ▷ 観光資源を活かしたエリアを形成
⇒ 3エリア 新潟島・沼垂・沢海
- ▷ 観光循環バスの改善
⇒ 新規車両の導入、運行ルート・ダイヤ変更



■ 農業や食文化を活かした交流促進

◆ ガストロミーツーリズムの推進



優れた拠点性を活かし、広域的な交流人口を拡大

「人口減少社会への対応」

人口減少社会への対応

■ 県と連携し、人口減少対策の取組みを強化

◆ 首都圏からの移住・就職を支援

- ▷ 首都圏から市内中小企業への就職・移住に対し、移住支援金を支給



◆ 移住の受け入れを促進(移住モデル地区) HAPPYターンモデルへの支援

地域が主体となって移住・定住の取組みを行う、実績のある地区

- ▷ 引越し費用など住宅に関する費用を支援
越前浜地区に続き、小須戸地区支援開始



移住モデル地区「小須戸地区」

◆ 人口減少対策チームを設置

- ▷ 組織横断的な取組みを推進

住みよいまち・暮らしたいまち新潟を実現



拠点都市・新潟に向け、 活力ある新潟市を実現

ご清聴ありがとうございました

本資料中の、握手()アイコン表示は、
選挙マニフェストの該当項目を示したものです。